

私を感じた戦争の過去

亀岡市立詳徳中学校三年 稲葉 幸奈

皆さんは今の平和は何によって成り立っているか、戦争ではどんなことが起きていたのかを考えたことがありますか。私は今まで、人の「死」に触れることが怖かったこともあり、今まで起こってきた戦争を知ることから逃げ、今あるこの平和が当たり前かのように思い込んでいました。でも、そんな私が戦争を知ることから逃げてはいけない、今の平和は尊く、重みのあるものなんだと感じた出来事が三つあります。

一つ目は、修学旅行前の映画鑑賞でみた「さとうきび畑の唄」でした。この映画では、戦場に出た兵士の「自分の手で人を殺すという罪悪感」や、「天皇のために自分の命を犠牲にするということが当たり前」という当時の人の使命感の中にある恐怖、そして、戦場に転がったたくさんの死体を見た残酷さ、家族の死を知った人が感じた深い悲しみが描かれています。私はこの映画を見て、戦争とはこんなに無惨なものなのかと、確かに当人の人々が感じていた人にとっては比べ物にならないくらい小さいかもしれませんが、今まで感じたことのない「戦争の重さ」に触れることができました。

二つ目は、修学旅行で行った平和祈念公園と旧海軍司令部壕です。そこには当時の写真や、戦争を実際に体験した人のお話などが書かれていました。私はその中にある子供とお母さんが土に埋まったまま亡くなっている写真をみて、本当にこのどこかで平和な沖縄にこんな無惨なことが起きていたのか、この写真を撮った人はどんな気持ちだったのか実感どころか想像すらできませんでした。でもそんな私が実際に沖縄で戦争が起きていたんだと実感させられたのは旧海軍司令部です。長い廊下を歩いているときはここで大勢の怪我をした兵士たちが横たわっていたんだと未だ実感できませんでしたが、自決の部屋に入り壁に鉄砲で撃った痕跡を見た時、私は突然背中に冷たい汗が流れました。そこに確かにあった「死」の痕跡を前にここで本当に戦争があり、たくさんの人が亡くなったんだと実感することができました。三つめは、社会の先生の「君たちのご先祖さんが生き残ってくれなければ君たちはここにいない。」という言葉です。この言葉を聞いて私は、これまでの歴史はすべて繋がっている、いままでの歴史も戦争も昔のことだけと決して他人事ではないのだと感じました。

この三つを通して私は、当時の人々や生きるはずだったたくさんの命を奪った戦争は二度と起こってはいけないと強く思いました。だからこそ、私たち一人一人が戦争について知り、考えることが大切だと思います。また、今、私たちが生きられているのはたくさんの人の犠牲の上にあることを忘れずに自分自身も戦争について深く知り、平和の意味について考えていきたいと思っています。